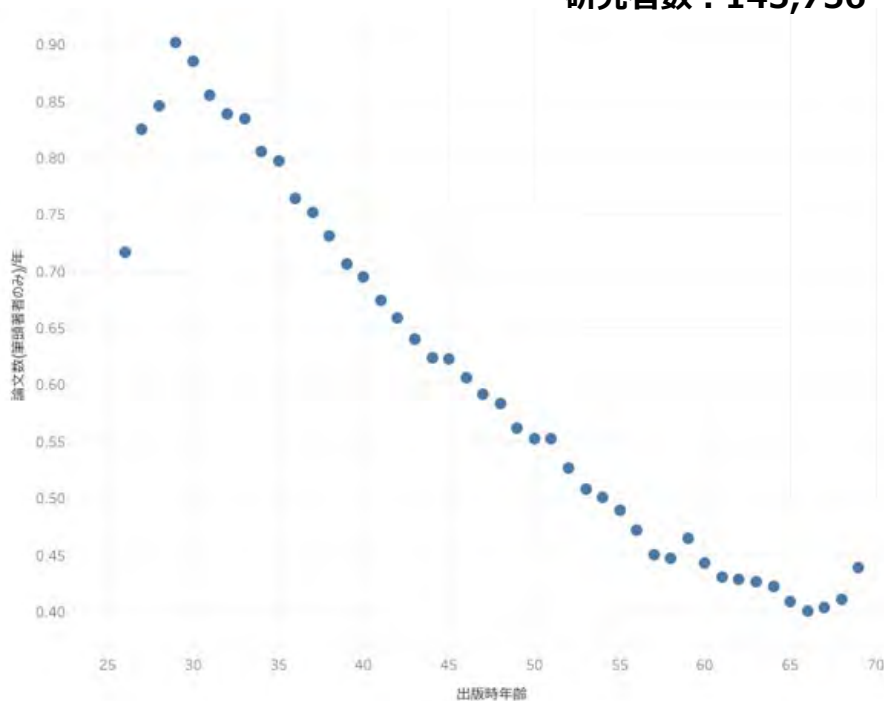


分析事例① 研究者の年齢と論文輩出状況の関係性

■ 1人あたり論文数（筆頭著者論文のみ）、論文あたり被引用数は「若手研究者」>「シニア研究者」となっている。

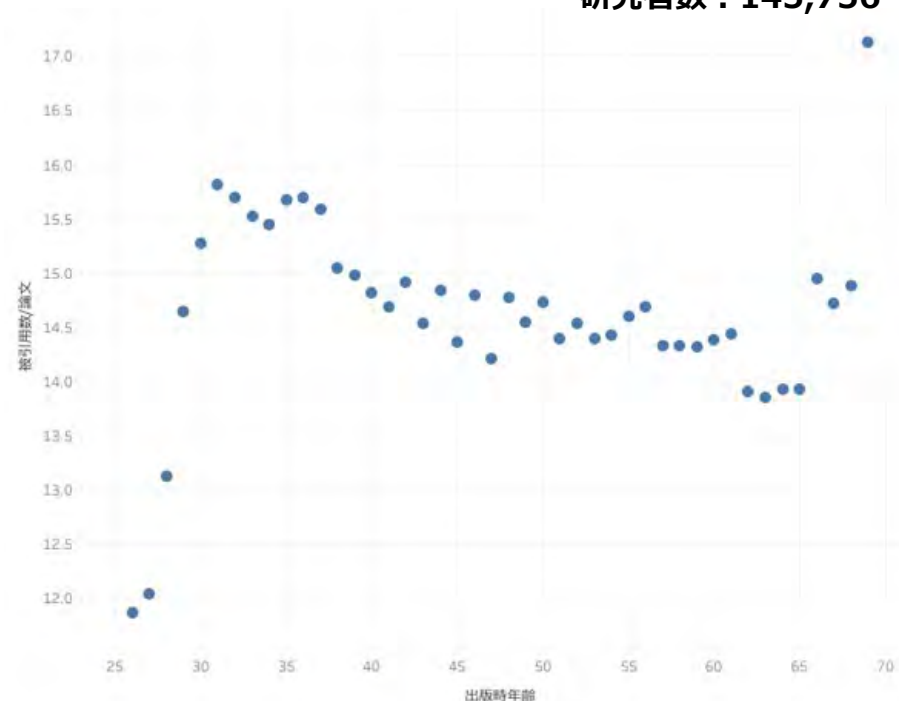
1人あたり論文数（筆頭著者論文のみ）

研究者数：145,756

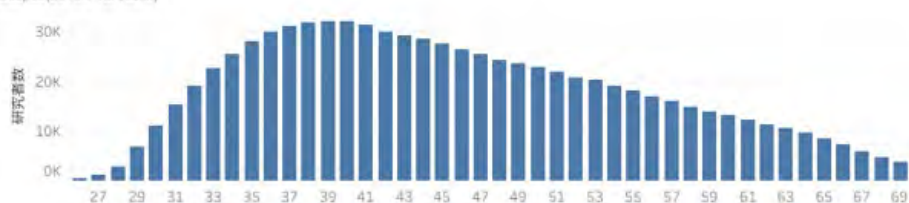


論文あたり被引用数

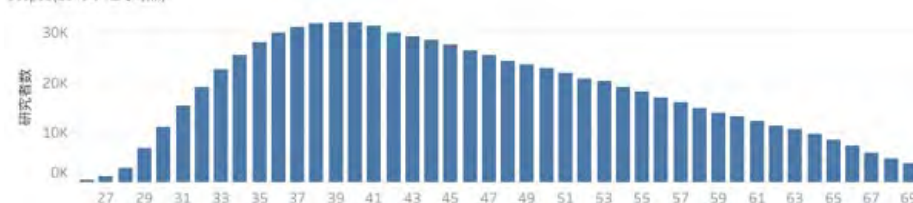
研究者数：145,756



Scopus(2019年12月時点)



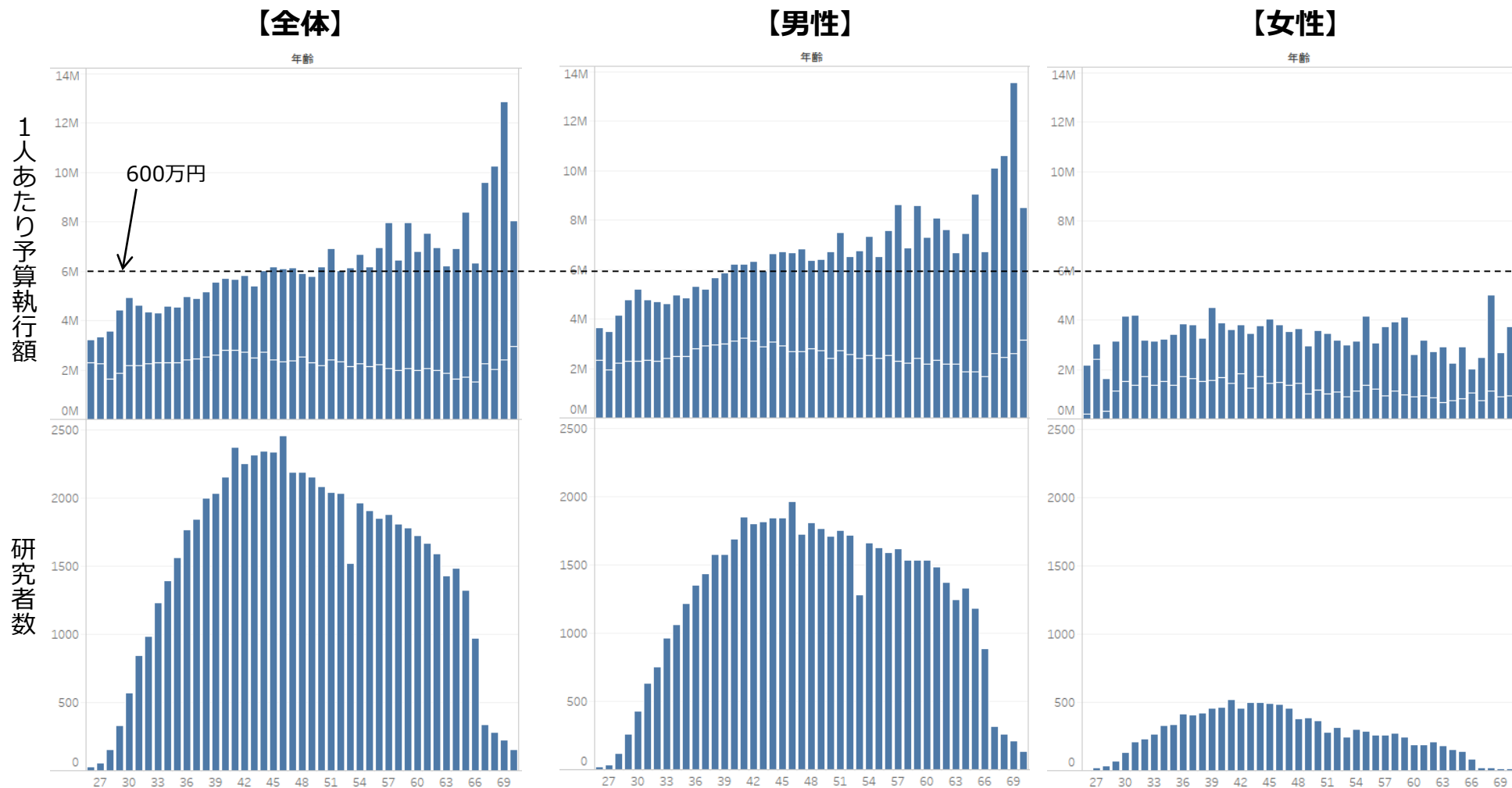
Scopus(2019年12月時点)



e-Rad に収録されている研究者データと論文データ(2008-2018年出版の論文データ。Elsevier社から購入した2019年12月時点のデータ) を利用して内閣府が作成。
出版時年齢は出版年とe-Radの生年により推定。

分析事例② 研究者の予算執行状況

■ 女性研究者の1人あたり予算執行額は、全体と比較して低い水準となっている。
 (分野の違い等を反映している可能性がある点に留意が必要)



「研究力の分析に資するデータ標準化の推進に関するガイドライン」に基づき収集した予算執行データ（2018年度）、人事マスタ（2018年度）利用して内閣府が作成。

1人あたり予算執行額 = すべての財源の合計金額 / 研究者数。縦棒内の白線は中央値を示す。

※ 国立大学の研究者に限定している。

分析事例③ 研究者単位の分析（1人あたり論文数）

■ いずれのカウント方法においても、予算執行額（研究者単位）が大きくなるにつれて1人あたり論文数は増加するが、伸びは小さくなる。

【整数カウント】

【分数カウント】

全論文

Top10%論文

全論文

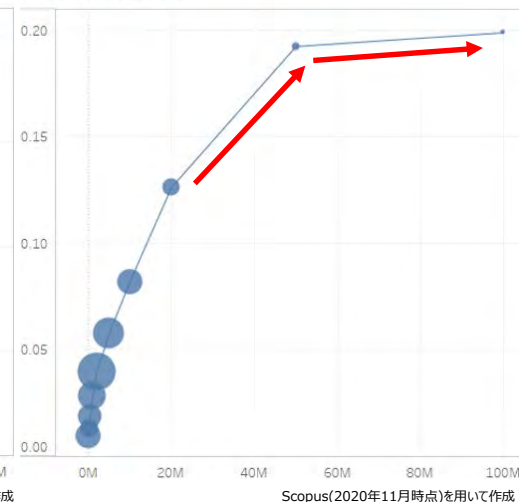
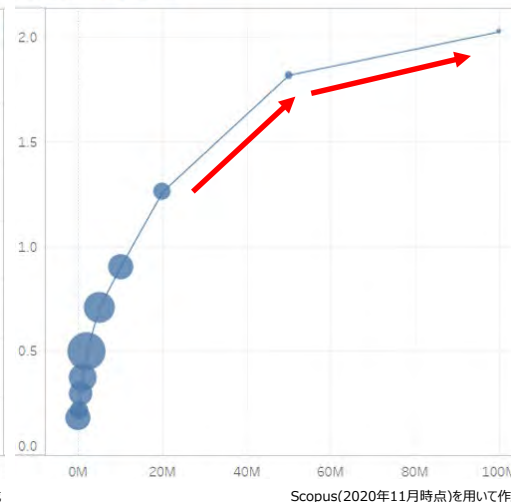
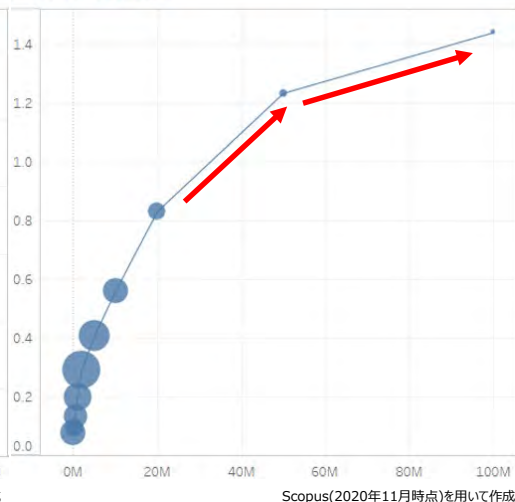
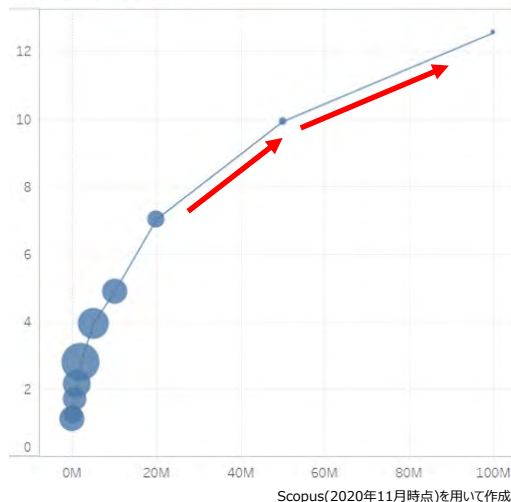
Top10%論文

x軸：予算執行額（研究者単位） y軸：1人あたり論文数
バブルサイズ：研究者数シェア

x軸：予算執行額（研究者単位） y軸：1人あたり論文数
バブルサイズ：研究者数シェア

x軸：予算執行額（研究者単位） y軸：1人あたり論文数
バブルサイズ：研究者数シェア

x軸：予算執行額（研究者単位） y軸：1人あたり論文数
バブルサイズ：研究者数シェア



「研究力の分析に資するデータ標準化の推進に関するガイドライン」に基づき収集した予算執行データ（2018年度）、人事マスタ（2018年度）、論文マスタ（出版年が2019年の論文、Elsevierから購入）を利用して内閣府が作成。

予算執行額（研究者単位）をもとに研究者を10グループに分類のうえ算出した数値を表示。（30万円未満、30万円以上、50万円以上、100万円以上、200万円以上、500万円以上、1,000万円以上、2,000万円以上、5,000万円以上、1億円以上）

※ 1 国立大学の研究者に限定している。

※ 2 人事マスタ（2018年度）において、人文社会系を主たる研究分野としている研究者は除いている。

分析事例③ 研究者単位の分析（1人あたり被引用数）

■ いずれのカウント方法においても、予算執行額（研究者単位）が大きくなるにつれて1人あたり被引用数は増加するが、伸びは小さくなる。

【整数カウント】

【分数カウント】

全論文

Top10%論文

全論文

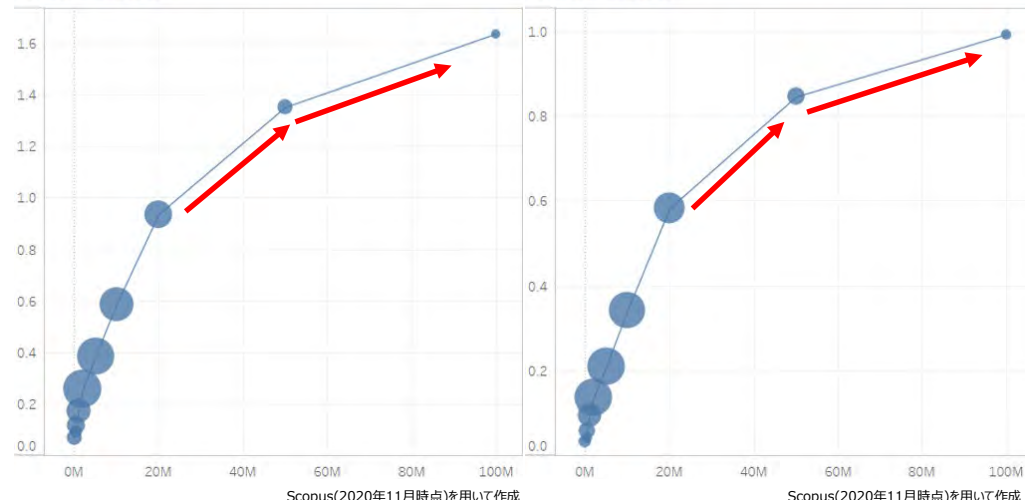
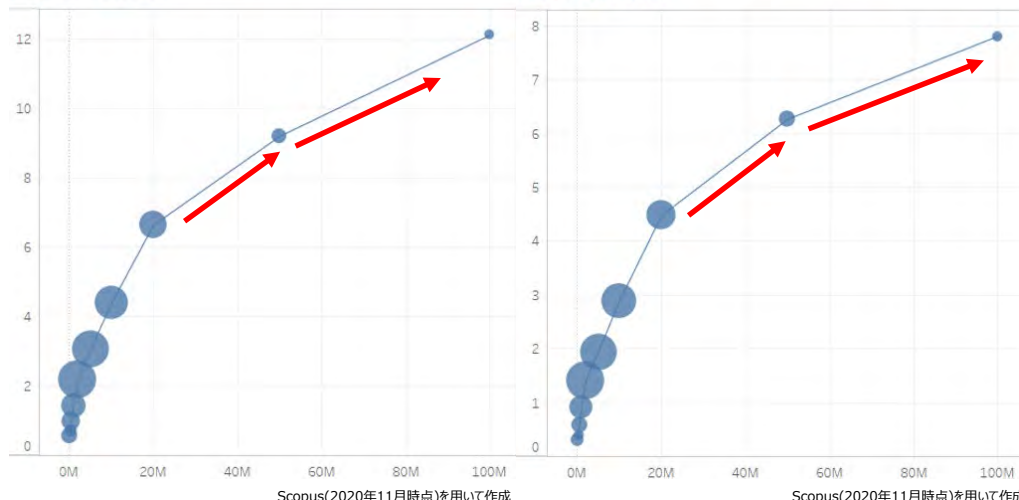
Top10%論文

x軸：予算執行額（研究者単位） y軸：1人あたり被引用数
バブルサイズ：論文数シェア

x軸：予算執行額（研究者単位） y軸：1人あたり被引用数
バブルサイズ：論文数シェア

x軸：予算執行額（研究者単位） y軸：1人あたり被引用数
バブルサイズ：論文数シェア

x軸：予算執行額（研究者単位） y軸：1人あたり被引用数
バブルサイズ：論文数シェア



「研究力の分析に資するデータ標準化の推進に関するガイドライン」に基づき収集した予算執行データ（2018年度）、人事マスタ（2018年度）、論文マスタ（出版年が2019年の論文、Elsevierから購入）を利用して内閣府が作成。

予算執行額（研究者単位）をもとに研究者を10グループに分類のうえ算出した数値を表示。（30万円未満、30万円以上、50万円以上、100万円以上、200万円以上、500万円以上、1,000万円以上、2,000万円以上、5,000万円以上、1億円以上）

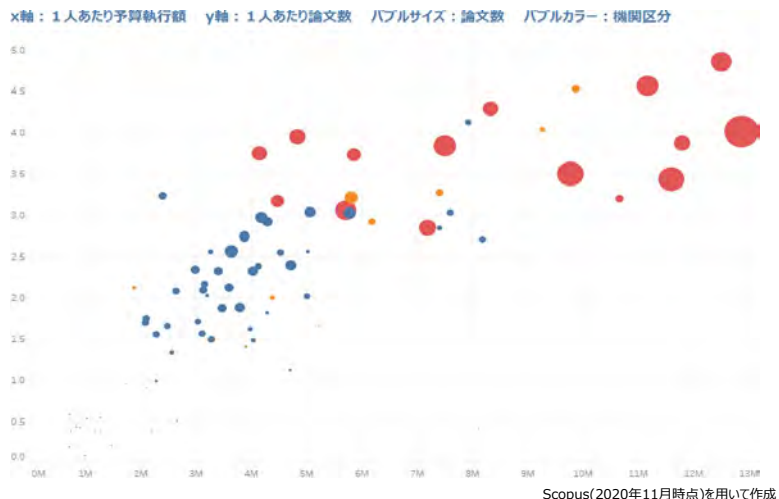
※ 1 国立大学の研究者に限定している。

※ 2 人事マスタ（2018年度）において、人文社会系を主たる研究分野としている研究者は除いている。

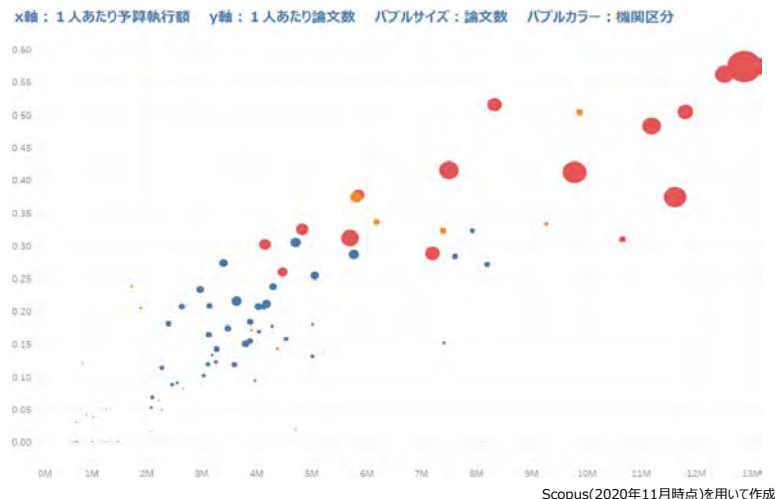
分析事例④ 機関単位の分析（1人あたり論文数）

■いずれの類型においても、機関ごとの1人あたり予算執行額が大きくなるにつれて、1人あたり論文数は増加する傾向。

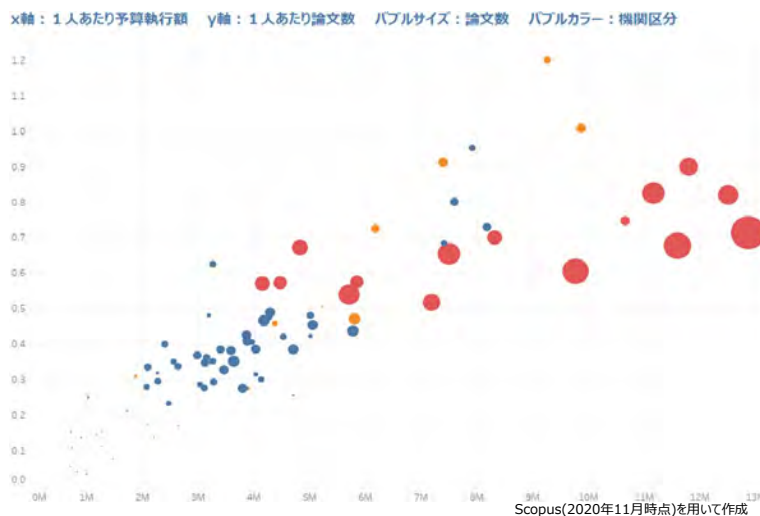
【全論文・整数カウント】



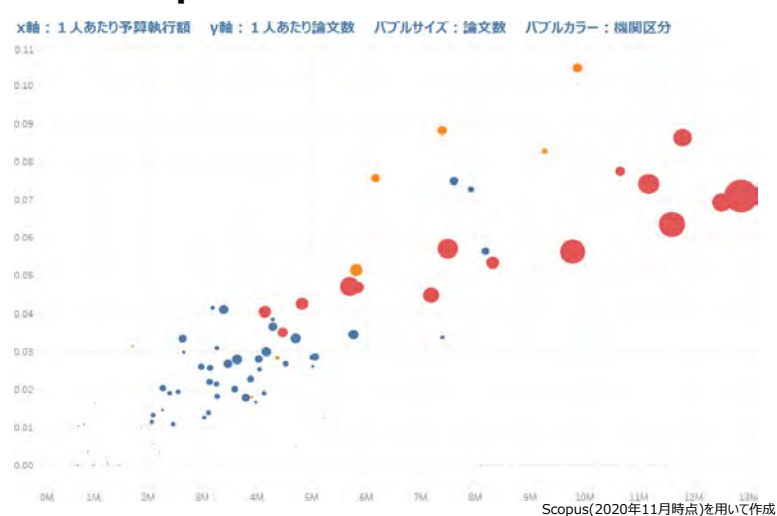
【Top10%論文・整数カウント】



【全論文・分数カウント】



【Top10%論文・分数カウント】



「研究力の分析に資するデータ標準化の推進に関するガイドライン」に基づき収集した予算執行データ（2018年度）、人事マスタ（2018年度）、論文マスタ（出版年が2019年の論文、Elsevierから購入）を利用して内閣府が作成。

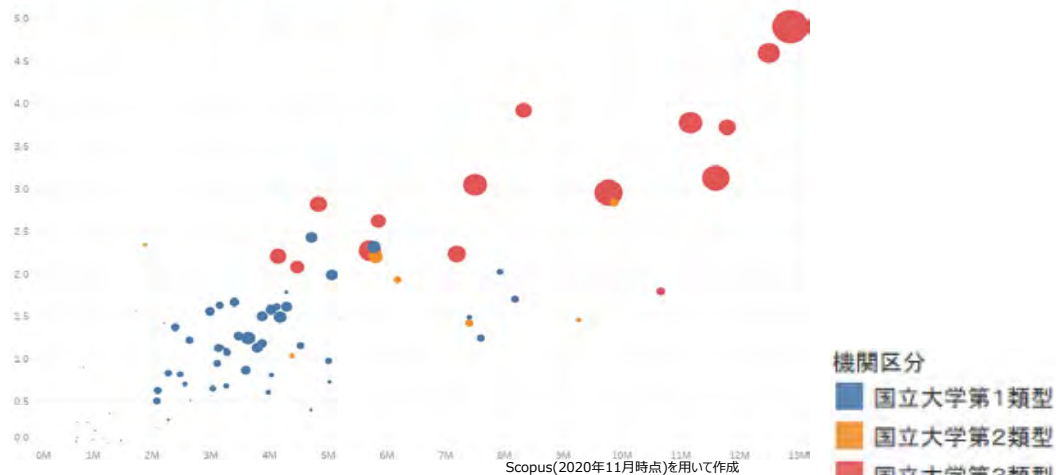
※ 人事マスタ（2018年度）において、人文社会系を主たる研究分野としている研究者は除いている。

分析事例④ 機関単位の分析（1人あたり被引用数）

■ いずれの類型においても、機関毎の1人あたり予算執行額が大きくなるにつれ、1人あたり被引用数は増加する傾向。

【全論文・整数カウント】

x軸：1人あたり予算執行額 y軸：1人あたり被引用数 バブルサイズ：論文数 バブルカラー：機関区分



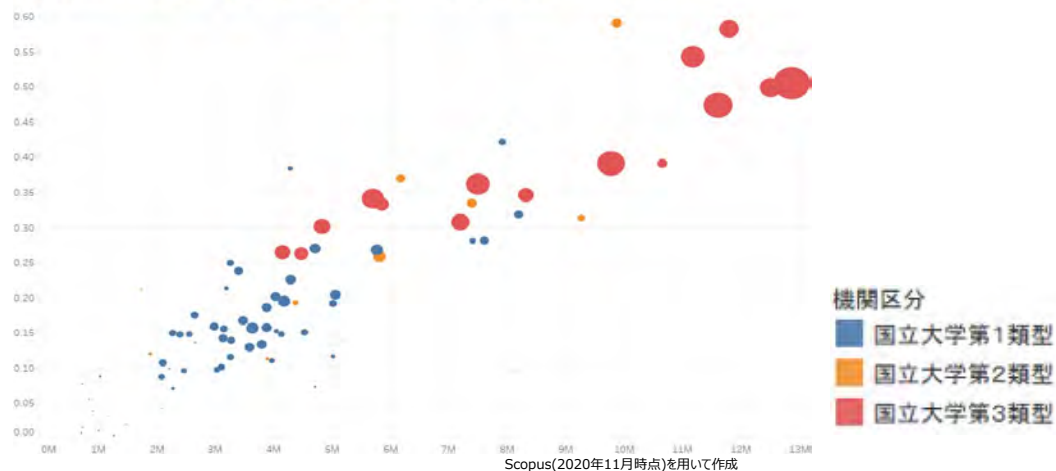
【Top10%論文・整数カウント】

x軸：1人あたり予算執行額 y軸：1人あたり被引用数 バブルサイズ：論文数 バブルカラー：機関区分



【全論文・分数カウント】

x軸：1人あたり予算執行額 y軸：1人あたり被引用数 バブルサイズ：論文数 バブルカラー：機関区分



【Top10%論文・分数カウント】

x軸：1人あたり予算執行額 y軸：1人あたり被引用数 バブルサイズ：論文数 バブルカラー：機関区分

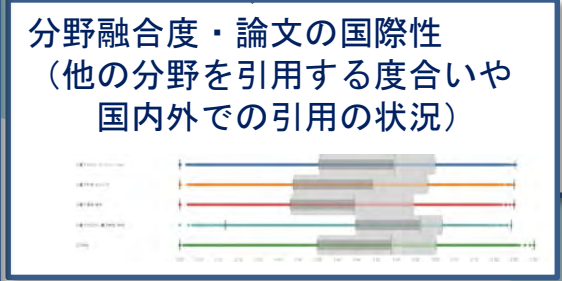
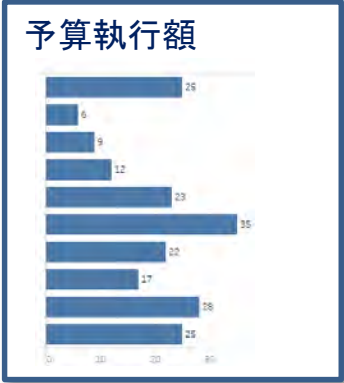
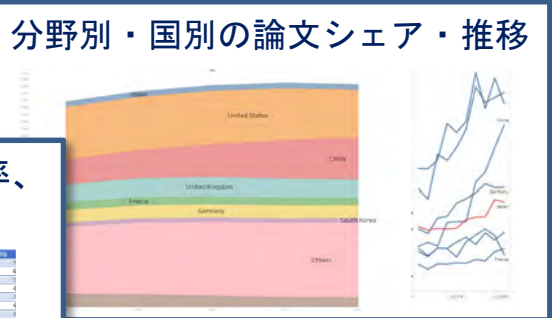
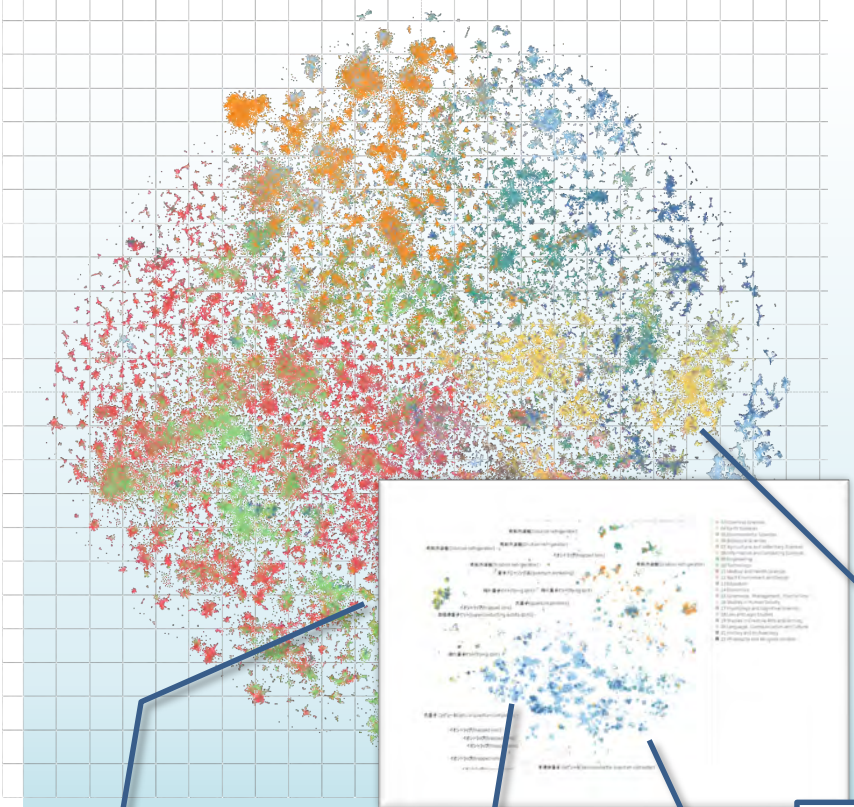


「研究力の分析に資するデータ標準化の推進に関するガイドライン」に基づき収集した予算執行データ（2018年度）、人事マスタ（2018年度）、論文マスタ（出版年が2019年の論文、Elsevierから購入）を利用して内閣府が作成。

※ 人事マスタ（2018年度）において、人文社会系を主たる研究分野としている研究者は除いている。

e-CSTIを活用した各分野における研究動向の把握 (イメージ)

- 全分野の書誌情報(論文以外のプレプリント等も含む)を、被引用関係をもとにお互いに関連性の高い論文集合(クラスター)に分解し、可視化。国立大学における研究者単位での予算執行データと結合。
- 注目する論文や技術を含む論文クラスターを分析することにより、当該技術に関連する論文等の数の推移、国際シェア、分野融合度、特許への引用度合いや、注目される研究者とその予算執行データ(国立大学法人のみ)を把握可能。



論文やプレプリント等の増加率、特許からの引用論文の推移

分野	増加率	特許からの引用論文の推移
1	10%	100
2	15%	150
3	20%	200
4	25%	250
5	30%	300
6	35%	350
7	40%	400
8	45%	450
9	50%	500

我が国の研究力把握への貢献